

Y33a 国立天文台アーカイブ室の活動(4):堂平観測所写真乾板の整理

大島 紀夫, 佐々木 五郎, 中桐 正夫, 渡部 潤一, 縣 秀彦 (国立天文台)

堂平観測所では1962年の開所から当初は主に写真観測を行ってきた。撮影された写真乾板は写真原簿に記録されており、91cm望遠鏡では1962年の観測開始から1988年までの3746枚が、50cmシュミット望遠鏡は1964年から1990年まで3726枚が書き込まれている。これらの乾板の中には、歴史的な彗星などを撮影した貴重なものも含まれている。

しかし、2000年3月の観測所閉所時に観測所が保管していた枚数は91cm撮影が467枚、50cmシュミット撮影が848枚であった。原簿に記録されている枚数からすると少ない。その後、旧天搜が保管していた写真乾板が旧図書館の倉庫に大量にあり、その中に堂平観測所で撮影された乾板もあることがわかり、リストアップを進め、91cm撮影2240枚、シュミット撮影1826枚を収蔵した。これらはスキャナーで取り込み、電子ファイル化し、保管箱へ分けて昇順にして収納した。それでも、原簿にある合計で7472枚からすると5381枚であり、約2000枚がまだ撮影者、測定者の手元にあるものと思われる。

本講演では、これらの乾板アーカイブ作業について報告する。